

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 (仮称)長岡京市神足興業計画 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			0.30			3.3
1 音環境		3.8	0.15			3.8
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40			
1.2 遮音		4.6	0.40			
1 開口部遮音性能	T-2	5.0	0.60			
2 界壁遮音性能	Dr=40	4.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-					
1.3 吸音	壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用	4.0	0.20			
2 温熱環境		2.7	0.35			2.7
2.1 室温制御		3.6	0.50			
1 室温	-	3.0	0.38			
2 外皮性能	窓システム SC:0.568程度 U=5.39程度、外壁 U=0.54程度	4.0	0.25			
3 ゾーン別制御性	大まかな空調のゾーニング、冷暖同時空調システムを採用	4.0	0.38			
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20			
2.3 空調方式	-	1.0	0.30			
3 光・視環境		3.6	0.25			3.6
3.1 屋光利用		3.6	0.30			
1 屋光率	屋光率:2.0%以上	4.0	0.60			
2 方位別開口	-					
3 屋光利用設備	-	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30			
1 昼光制御	-	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15			
3.4 照明制御	1作業単位で照明制御でき、端末で調整が可能	5.0	0.25			
4 空気質環境		3.5	0.25			3.5
4.1 発生源対策		3.0	0.50			
1 化学汚染物質	-	3.0	1.00			
4.2 換気		4.6	0.30			
1 換気量	建築基準法を満たす換気量の1.4倍以上	5.0	0.33			
2 自然換気性能	自然換気有効開口/居室床面積=1/30以上	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	空気取り入れ口は各種排気口と異なる方位で、6m以上離れている	5.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視	-	3.0	0.50			
2 喫煙の制御	-	3.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.5
1 機能性		3.1	0.40			3.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40			
1 広さ・収納性	執務スペース:9m ² /人以上	4.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応	-	3.0	0.33			
3 バリアフリー計画	-	3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30			
1 広さ感・景観	天井高:2.9m以上	5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース	-	2.0	0.33			
3 内装計画	-	1.0	0.33			
1.3 維持管理		3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い材料の採用等	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		3.3	0.30			3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.9	0.30			
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	金属パネル:30年	5.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	タイルカーペット:15年、不燃クロス:15年、岩綿吸音板:30年	4.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種の2種以上にB以上を使用し、Eは不採用	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20			
2.4 信頼性		3.2	0.20			
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20			
3 電気設備	-	3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20			
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20			

3	対応性・更新性		4.1	0.30		-	4.1
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.30		-	
	1 階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1以上	4.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	スラブ15000N/m ² 、柱・大梁・基礎9000N/m ² 、地震用6000N/m ²	5.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.2	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	OAフロアの採用	5.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.40		-	2.8
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	植栽による景観の形成に配慮	4.0	0.40		-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30		-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						3.7
LR1	エネルギー			0.40			3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.91	3.8	0.20		-	3.8
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI _m =0.34	5.0	0.50		-	5.0
4	効率的運用		2.0	0.20		-	2.0
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制	-	1.0	0.50		-	
	集合住宅の評価						
	4.1 モニタリング	-					
	4.2 運用管理体制	-					
LR2	資源・マテリアル			0.30			3.8
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
	1.1 節水	主要水栓の過半以上に省水型機器を採用	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.8	0.60		-	3.8
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	リサイクル資材を3品目以上使用	5.0	0.22		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS+ボードの取組み	5.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.9	0.20		-	3.9
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	対象物質を含有しない建材を4種別採用	5.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避	-	3.5	0.70		-	
	1 消火剤	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、1<GWP<10	4.0	0.50		-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境			0.30			3.3
1	地球温暖化への配慮	LCCO2排出量削減に配慮	3.9	0.33		-	3.9
2	地域環境への配慮		2.8	0.33		-	2.8
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33		-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	-	3.0	1.00		-	
	2 振動	-	-	-		-	
	3 悪臭	-	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	-					
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	4.0	0.70		-	
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0	○	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	○	○	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0	-	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標		指標値													
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能		窓システムSC	0.6	窓の日射熱取得率(η)											
		U値(W/m ² K)	窓システム 5.4	屋根	-	外壁	0.5	床	-						
		住戸部分	窓システムU値	-	外皮UA値	-	η_{AC}	-	η_{AH}	-					
3.1.1 昼光率		昼光率	2.3%												
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率	5.8%												
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収容性		執務スペース	11.3m ² /人	病床	0.0m ² /床	シングル	0.0m ²	ツイン	0.0m ²						
1.1.2 高度情報通信設備対応		コンセント容量	0.0 VA/m ²												
1.2.1 広さ感・景観		天井高	3 m												
1.2.2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%										
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定耐用年数	0 年												
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔	30 年												
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔	15 年												
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		想定必要間隔	0 年												
3.1.1 階高のゆとり		階高	6.4 m												
3.1.2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率	13.0%												
3.2 荷重のゆとり		床荷重	15000 N/m ²												
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出		外構緑化指数	16%	建物緑化指数	0%										
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率	45%	水平投影面積率	6%	地表面対策面積率	9%	舗装面積率	41%						
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI/BPI _m	0.91	断熱等性能等級	対象外 相当										
2 自然エネルギー利用		自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%	通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%				
3 設備システムの高効率化		BPI/BPI _m	非住宅 0.34	住宅	-	太陽光	0.0kW	太陽熱等	0.0kW	蓄電池	0.0kW				
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用率	0.0%												
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		特定調達品目	断熱材	エコマーク商品	岩綿吸音板、ビニル繊維指定の特定品目等										
2.5 持続可能な森林から産出された木材		使用比率	0.0%												
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)												
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3										
3.2.3 冷媒		オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)											
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善		見付面積比	102%	隣接間隔指標Rw	0.90										
		地表面対策面積率	15.0%	屋根面対策面積率	#DIV/0!	外壁面対策面積率	#DIV/0!								
		見付面積S _b	1,652m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	84.04 m	基準高さH _b	19.14 m								
		緑地	286m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	m ²	再帰性反射対策面	m ²				